

関西経済の発展と 都市高速道路ネットワーク



大阪市 計画調整局長 北村 英和

冒頭にあたり、まずは、8月2日の第2滑走路オープンおめでとうございます。世界陸上大会でも選手、観客をはじめ多くの方々がこの関西国際空港を利用されました。国内初の世界標準の完全24時間空港として、関西経済発展の牽引、情報発信力の強化、そして、関西の各都市がそれぞれのまちづくりを進めていくうえでの大いなる貢献が期待されます。

大阪市では、大阪で住み、働き、活動する「人」を大切に、これら創造的な人材の集積により豊かな産業や文化を生み出す『創造都市』の実現に取り組んでいます。

そのために、大阪駅北地区でのナレッジキャピタルをテーマとしたロボット・テクノロジー、ITユビキタスなど、これからの関西経済の発展を担う最先端の知的産業の集積をめざしたまちづくりをはじめ、水とともに発展してきた都市の歴史から「水の都大阪」再生の取り組みや、国際シンボルアイランドとしての「中之島地区」の整備など、大阪の歴史や文化を活かしながら公民協働のもと大阪ブランドを高めるまちづくりを推進しています。

まちづくりを進めていく上で、ビジネスや観光などによる人の交流、物流の活性は大変重要な要素であり、関西国際空港や大阪港という海外とのゲートウェイは、関西エリアの都市活動に無くてはならない施設といえます。そして、さらなる都市プロモーションを進めていくには、ゲートウェイと各都市を結ぶ鉄道、道路というインフラの整備拡充が必要となります。

鉄道につきましては、JR や南海電鉄により難

波・天王寺・大阪など主要駅と繋がり、そこからさらにJR、新幹線により全国へアクセスしています。また、関西国際空港へのアクセシビリティを高めるため、現在、大阪駅北地区の整備の中で、JRの「はるか」を大阪駅に停めることができるよう検討を進めているところです。

道路に関しましては、関西の高速道路のネットワークは、まだまだ未整備のところが多く、新名神高速道路や第2京阪道路などの国幹道の整備はもとより、大阪臨海部とこれら国幹道とを効率的に結ぶための神戸湾岸線西進部や名神湾岸連絡線、都市再生環状道路の整備が望まれているところです。

このうち、大阪市のほぼ周縁部を環状に回る都市再生環状道路は、平成13年度に国の「都市再生プロジェクト」の指定を受け、計画延長約60kmのうち、大半の区間が既整備区間あるいは工事中区間（阪神高速道路株、大阪府、大阪市、堺市により実施）となっていますが、環状の北東側約9kmの区間（淀川左岸線延伸部）はまだ構想段階であり、現在、国土交通省、大阪府、大阪市で早期整備に向けた検討を行っているところです。

高速道路は、都市の動脈という言葉で表現されることがありますが、道路ネットワークは、まさしく都市という生命を維持するための血管の役目を果たしており、都市での生産財、消費財を滞りなく運搬し都市活動を支えていくためにはなくてはならないインフラといえます。これら陸海空の施設連携のもと関西がより一層発展していくよう、関西国際空港を十分活用したまちづくりを進めていきたいと考えています。